

田舎暮らしを楽しむ

(4)

佐藤 彰啓



房総半島の物件なら東京から近い

田舎暮らしの「新天地」をどこにするか。どんな尺度で地域を選んだらいいだろう。

田舎で何をしたいかという目的のほかに、現在の住まいからの距離も重要な基準になる。一つの目安は三時間以内かどうかだ。田舎暮らしを始めた人の多くは自宅から三時間圏内の物件を選んでる。田舎で暮らすとはいえず、長く住み続けた都会との関係は絶ちがたい。都会に済む子供や孫、友人とのつながりも大切になりたい。三時間圏内なら往来しやすい。

千葉県房総半島

今の家から3時間内 目安

地域選び(上)

島に暮らす今泉夫妻は当初、東京都内の自宅を二世帯住宅に建て直し、息子夫婦と同居するつもりでいた。息子夫婦は家賃十三万円のマンション暮らし。工務店に建て替えるの見積もりを依頼したら、三千五百万円だった。風呂は共同にするにしても、二世帯住宅は建築費がかさむ。それを実行に移すかどうか迷った。お互いに現在の住まいより使用できる面積が狭くなる。息子夫婦の返済金が現在の家賃より大幅に増えることもネックになった。

ご主人は海釣りが好きで、よく房総方面に出かけていた。思い切つて自分たちが現在の家から出て、房総に移り住んだらと考えてみた。ちょうどそのころ、館山市に土地百三十坪(一坪三・三平方メートル)、建坪三十二坪、築後七年の中古住宅が千八百万円で売りに出ていた。現地に行つて見たらすつかり気に入ったので購入を決めた。

現在、都内の自宅には息子夫婦が住み、家賃として一〇万円を入れている。それを館山の住宅購入資金の返済に充てている。東京の自宅の一室は自分たち夫婦用とし、東京に出て演劇や映画を鑑賞したり、知人と会つたりするときの宿泊場所利用している。息子夫婦にとつて房総の家はセカンドハウスだ。資金面でも、今泉さんは東京で二世帯住宅を建てるより、暮らしの拠点を二つ持つ選択をしたことを良かったと振り返る。

最近の田舎暮らしで目立つのは、こうした都会と田舎を結ぶ「新・スロープの冷めない距離」のライフスタイルである。

(ふるさと情報館代表)